

## みんなのはままつ創造プロジェクト

浜松市は、地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、その活動が市民の暮らしの質を高めていく都市「創造都市」を目指しています。「みんなのはままつ創造プロジェクト」は、創造都市の実現に向け、市民活動団体や民間企業等が発意・主導して実施する創造的な取り組みを応援する事業で、スタートアップの資金を補助するプロジェクトです。平成24年度からはじまり、これまでに198事業が採択されています。

## 静岡県文化プログラム

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、オリンピック憲章で開催が定められた「文化プログラム」が、日本全国で展開されます。静岡県文化プログラム推進委員会は、文化・芸術振興や文化・芸術による地域・社会課題対応を目指して、様々な団体等との協働による取組を進めています。

## オプション企画

### ・3月17日(土) 18:00- アートプロジェクトによるネットワークって何なのか? 本当に必要?

主催：アート・アンド・ネットワーク 会場：ここ・い〜ら (ギャラリー2) ※シンポジウムと同会場  
アートプロジェクトにおけるネットワークの役割と、地域に対し、そして世界に拡大していくネットワークの可能性について、全参加者と議論を行います。

**【アート・アンド・ネットワーク】**  
2016年度に終了したアサヒ・アート・フェスティバルに参加していた有志が自主的に立ち上げたネットワーク・プロジェクト。草の根アート活動の相互交流や情報交換を行なっている。事象を多角的に捉え、橋渡しする力を備えたアートが地域で果たす役割は重要である。アート・アンド・ネットワークは、草の根アート活動のネットワーク化で可視化を図り、その存在と可能性を社会にアピールするとともに、新たな仲間を呼び込み、世界に広がるネットワークの構築を目指している。

### ・3月16日(金)-17日(土) タイムトラベル100時間ツアー vol.14 地域とアートシンポスペシャル

主催：認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 場所：障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァ  
アサヒ・アート・フェスティバル参加団体をはじめ、全国各地からレッツに遊びに行きたい、体験したいという声が多く寄せられておりました。それらの声を受けて、クリエイティブサポートレッツでは2016年度より観光事業を行っております。日本全国各地からたくさんの地域アートプロジェクトが集合するこの機会に、レッツを観光してみませんか? もちろん事例発表団体のツアー参加もOKです。完全申込制。定員10名。お申し込みは <http://100htour.net> または、 [lets-arsnova@nifty.com](mailto:lets-arsnova@nifty.com) まで!

## 会場

浜松こども館分室 ここ・い〜ら ギャラリー2  
(静岡県浜松市中区鍛冶町100-1 ザザシティ浜松中央館5階)  
浜松駅より徒歩約10-15分



### 3月3日(土)-17日(土) 「レッツ観光局」開催

レッツが考えている「観光」とは何か、これまでに行った事業の紹介、アルス・ノヴァの日常を切り取った動画などでご紹介します。期間中、トークイベント、アルス・ノヴァに滞在するツアー、まちを観光するツアーなども開催します。詳しくはレッツHP (<http://cslets.net/>) をご覧ください。

## お問合せ

浜松市市民部創造都市・文化振興課  
〒430-8652 静岡県浜松市中区元城町103-2  
電話：053-457-2301 / ファックス：050-3730-2887  
メール： [souzoutoshi@city.hamamatsu.shizuoka.jp](mailto:souzoutoshi@city.hamamatsu.shizuoka.jp)

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ  
〒432-8061 静岡県浜松市西区入野町8923-4  
電話：053-440-3176 / ファックス：053-440-3175  
メール： [lets-arsnova@nifty.com](mailto:lets-arsnova@nifty.com)  
ホームページ：<http://cslets.net/>  
Facebook：  
<https://www.facebook.com/takebunn/> (たけし文化センター)  
<https://www.facebook.com/letsarsnova/> (アルス・ノヴァ)

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツについて  
社会の「あたりまえ」なんておかないし、「あるがまま」であることを貫き通す。重度の知的障害者「たけし」の出会いが「クリエイティブサポートレッツ」の始まりです。彼になら「あたりまえ」を気にするのを少しやめたら、障害・国籍・性差・年齢などのちがいを越えた、「あなた」と「わたしの関係」が見えてきました。できるだけ多くの人が「あるがまま」にて、お互いちょっと刺激しあひながら、心地よセッションしていく場。レッツは、社会にそんな場所が増えたいことを目指しています。

# 地域とアート 草の根アートプロジェクトからの考察

草の根アートプロジェクトは地域を変えていくことができるのか?

## 2018年3月17日(土) 11:00-17:30

浜松こども館分室 ここ・い〜ら ギャラリー2 (浜松市中区鍛冶町100-1 ザザシティ浜松中央館5階)

市民が各々の問題意識や情熱から立ち上がった草の根アートプロジェクトが全国で展開されています。しかし地域の文化政策の中で、それらの活動は広く認知されているとは言えず、活動を長く継続していくための議論や支援もまだまだ十分とは言えません。2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、全国で文化プログラムが隆盛していく一方で、長年そうした団体を支えていた民間の助成事業「アサヒ・アート・フェスティバル」は2016年に終了し、草の根アートプロジェクトは新たなステージに入ったと言えます。文化・芸術には、様々な人々を認め、勇気づけていく力があります。そして、必ずしも優れたアーティストがいなくても作れないものではなく、一般の市井の人々が自ら作り出すものでもあります。また、そこに参加することで、自分たちと生活や地域を見直したり、よりよく変えていく機動力になります。そうした人々を育てていくのもアートプロジェクトの役割です。このフォーラムでは、全国の草の根アートプロジェクト実践者にお集まりいただき、草の根アートプロジェクトの意義と未来、それらを支える仕組みについて議論したいと思います。

主催：浜松市創造都市推進会議 企画・運営：認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 協力：静岡県、NPO法人アートNPOリンク、アート&ネットワーク





# タイムスケジュール

## 11:00 挨拶 (浜松市文化政策担当者) 事例発表

11:30  
12:00  
12:30  
13:00  
13:30

2016年に終了した「アサヒ・アート・フェスティバル」の参加団体をはじめ、「静岡県文化プログラム」参加団体に「みんなのはままつ創造プロジェクト」採択団体に事例発表をしていただきます。草の根アートプロジェクトの効果と課題、そして行政等に期待する支援の形などを含めてお話ししていただきます。(途中昼食休憩12:30~13:30)

昼食休憩

## 14:00 文化政策と自治体の取り組み

草の根アートプロジェクトの行政の支援事例として、浜松市の取り組み「みんなのはままつ創造プロジェクト」、静岡県の取り組み「静岡県文化プログラム」のそれぞれの取り組みと課題をお話ししていただきます。

## 15:30 シンポジウム

登壇者:加藤種男、港千尋、山出淳也、朝倉由希、菱沼妙子  
司会:大澤寅雄  
草の根アートの提唱者である加藤さんをはじめ、実践者、支援者、それぞれの立場から、草の根アートのこれから、地域におけるアートの可能性などについて議論していきます。(途中休憩15分)

16:00  
16:30  
17:00  
17:30

# シンポジウム (五十音順)

### 朝倉由希

(文化庁地域文化創生本部総括・政策研究グループ研究官)



福井県福井市生まれ。京都大学文学部卒業。企業勤務を経て、東京藝術大学音楽環境創造科入学。同大学で様々なアートプロジェクトを経験しながら、文化政策や芸術文化事業の評価をテーマに研究活動を行う。同大学大学院応用音楽学に移り、2009年博士後期課程修了。博士号取得。2009~2012年、東京藝術大学アートエッセンスセンター学術研究員として、大学と地域の連携による文化事業企画運営に携わる。2012年に故郷の福井市に戻り、一乗谷にある実家の寺院を拠点に創造的な場づくりに取り組む。2014年~2016年AAF参加。静岡文化芸術大学、福井県立大学、福井大学各講師。公益社団法人岡山県文化連盟アドバイザー、NPO法人福井芸術・文化フォーラム理事。2017年4月より文化庁地域文化創生本部研究官。文化政策の国際比較を担当。

### 大澤寅雄

(ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室)



1970年生まれ。(株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員、NPO法人アートNPOリンク理事、NPO法人STスポット横浜監事、九州大学ソーシャルアートラボ・アドバイザー。慶應義塾大学卒業後、劇場コンサルタントとして公共ホール・劇場の管理運営計画や開館準備業務に携わる。2003年文化庁新進芸術家海外留学制度により、アメリカ・シアトル近郊で劇場運営の研修を行う。帰国後、NPO法人STスポット横浜の理事および事務局長、東京大学文化資源学公開講座「市民社会再生」運営委員を経て現職。共著『これからのアートマネジメント』『ソーシャル・シェア』への道』『文化からの復興 市民と震災といわきアリスト』。

### 加藤種男

(クリエイティブ・ディレクター 草の根市民社会のネットワーク提唱、社会創造政策論者)



アサヒビルでアサヒ・アート・フェスティバルなど多数のプロジェクトを立ち上げ、あわせて、経営戦略としての企業のメセナ活動を提唱。草の根市民社会のネットワークを提唱して、アートNPOフォーラムを立ち上げ、アートNPOリンク理事などを務める。横浜市芸術文化振興財団専務理事などを歴任し、創造界隈形成など、創造都市横浜を推進。すべての人が創造的になる社会をめざす「創造列島」を提唱し、「Creative Archipelago 大阪」などが始動。企業メセナ協議会専務理事、文化審議会政策部会委員などを歴任し、文化政策を提言。沖縄県文化振興財団アドバイザーなどを歴任し、現在、アートカウンシル東京カウンシルボード議長。\*2008年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

### 菱沼妙子

(有限会社ヴィジョンズ代表)



上智大学外国語学部英語学卒業。班尾のジャズフェスやMt.Fuji Jazz Festivalのプロデュース、米国のインターネット・エンターテインメントサービスのベンチャー企業の日本法人の立ち上げなどに携わる。以降、松下電器産業(株)、アップル社などを経て、松竹(株)では歌舞伎の海外公演を手掛けたほか、山梨県峡南地区、市川三郷町、京丹後市、青森県、岐阜県、横浜市などの地域振興プロジェクトを担当。音楽から伝統芸能、コンテンツビジネスまで企画・プロデュースに関する豊富な実績を持つ。2017年4月には内閣府の「第10回観光戦略実行推進タスクフォース」に有識者として参加し、「文化による観光活性化施策について」をテーマとしたプレゼン・提言を行う。2018年4月、浜松版アーツカウンシルのプログラムディレクターとして就任予定。

### 港千尋

(写真家・著述家)



1960年神奈川県生まれ。写真家・著述家。NPO法人Art Bridge Institute 代表理事。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授(映像人類学)。早稲田大学政治経済学部卒業。2013年より国際交流基金国際展事業委員を務める。群衆や記憶など文明論的テーマをもちつつ、研究、作品制作、展覧会、出版、キュレーション等、幅広い活動を続けている。著作『記憶-創造と想起の力』(講談社/1996)でサントリー学芸賞、展覧会「市民の色」で伊奈信男賞を受賞。2006年に釜山ビエンナーレ共同キュレーターを、2012年に台北ビエンナーレ共同キュレーターを務める。2007年にはヴェネツィアビエンナーレ国際美術展日本館のコミッションも務めた。あいちトリエンナーレ2016芸術監督。

### 山出淳也

(NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事)



1970年大分生まれ。アーティストとして参加した主な展覧会として「台北ビエンナーレ」台北市立美術館(2000-01)など多数。地域や多様な団体との連携による国際展開催を目指して、2005年にBEPPU PROJECTを立ち上げ現在にいたる。別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」総合プロデューサー(2009、2012、2015)、国東半島芸術祭 総合ディレクター(2014)、おおいとトリエンナーレ 総合ディレクター(2015)、「in BEPPU」総合プロデューサー(2016~)、国民文化祭おおいと2018 市町村事業 アドバイザー(2016~)、平成20年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞(芸術振興部門)、文化庁第15期文化政策部会文化審議会委員。

# 参加団体 (五十音順)

**ART LAB OVA** ▶ 日常の風景・場景の奥行きと広がりを見つめ、それらを自分たちを含めた〈状況〉としてとらえ、同じ日常の地平において、関わりとしての表現を試行している。1996年設立。2010年多文化な下町にある独立系映画館「シネマ・ジャック&ベティ」のとなり「横浜パラダイス会館」を開設。ブラジル炭火焼肉屋とコンテンポラリーダンサー(モン族のパートナーと子育て中)ともシェアしながら多目的なスペースとして運営している。

**ENVISI** ▶ 2004年、仙台市卸町での、はっぴい・はっぴ・プロジェクトで活動を開始。住民と活動に参加する市民が、共にそのプロセスを楽しみながら、アート活動を通して地域を見つめ直し、見えにくかった地域固有の資源を見える化、さらには再価値化するプログラムを、各地で展開してきた。2010年、宮城県南三陸町できりこプロジェクトを立ち上げる。2011年東日本大震災で多くを失った同町で多彩な活動を続ける。ディレクターは吉川由美。

**認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ** ▶ 障がいのある人が社会の一員として文化的に豊かな人生を送ることのできるまちづくりと、様々な人が「ちがいを認め、分かち合い、共生する社会づくりをミッションとして活動している。個人の熟意を文化創造につながるもっとも大事な部分と考え、個人から個人への目線の大切さと人の交わりから生まれるものごとの多様さへの発信・伝達を行っている。

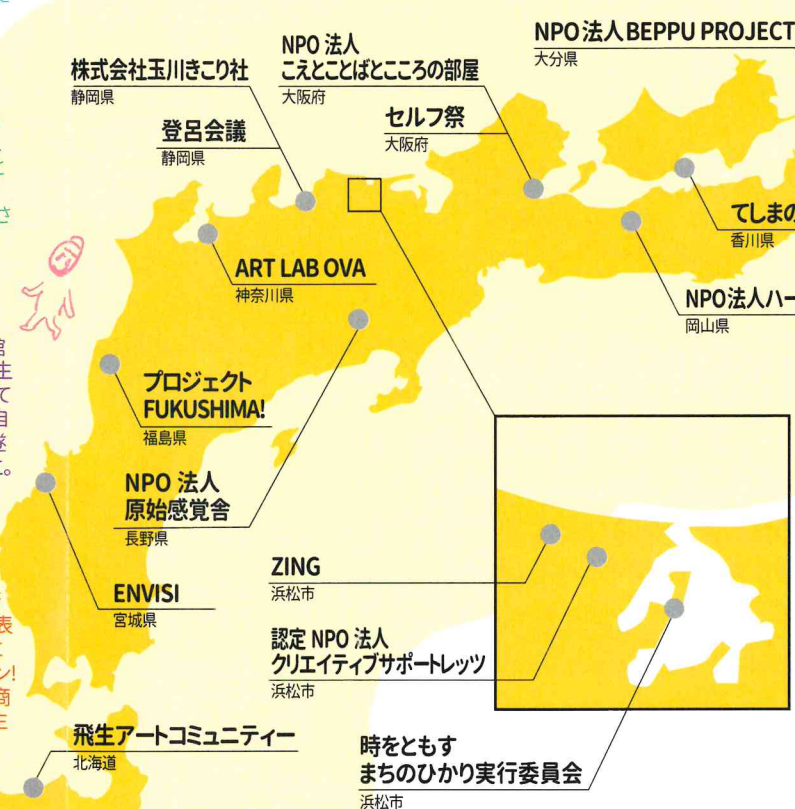
**NPO 法人原始感覚舎** ▶ 探検家・食生態学者の西丸震哉の記念館を中心に、長野県大町市木崎湖畔で、2010年より毎夏、大地とともに生きる「生活における花」としての祭を作り上げてきた。作家と地元メンバーが一丸となって祭をつくりだすことで、社会の中で疎外感を感じてしまうような弱者を受容し、大自然や農業など、命とふれあう経験を通じた創造の現場を共にし、一緒に成長を遂げていくような豊穡な場が生まれている。2016年、NPO 法人原始感覚舎を設立。

**NPO法人こえとことばとこころの部屋 (ココレーム)** ▶ 大阪市西成区釜ヶ崎で喫茶店のふりをしてアートNPO法人。2003年、大阪市の現代芸術拠点形成事業に参画し、いまはない新世界フェスティバルゲートで活動のスタート。表現と社会と仕事と自立をテーマに、さまざまなかたちで問いを重ねてきた。07年に市の事業は終了し、08年釜ヶ崎の端の動物園前商店街に拠点を移し、09年カマン!メディアセンター(2015年終了)、12年釜ヶ崎芸術大学をたちあげ。16年、同商店街の南に移転し、35ベッドの「ゲストハウスとカフェと庭ココレーム」を開所。野生的で開放的な庭とあふれる創造力で、新たなでかい場をめざす。

**ZING** ▶ ミュージシャン、アーティストの吉田朝麻とイラストレーターの友野可奈子によるアートユニット。自分の考えや表現を自由に形に伝える事のできる小冊子媒体「zine (ジン)」をはじめ、様々な印刷技術を通じた媒体制作の場やきっかけを作る事を目的に活動を行う。浜松のゆりの木通りや鴨江アートセンターでの開催や、東京都庭園美術館と共同企画の「zine 作りワークショップ」(2013年)や長野県松本市のプロジェクト「工芸の五月」への参加(2014年~)など様々な土場で活動を行う。

**セルフ祭** ▶ 大阪の通天閣近くの新世界市場にて行われる、参加者に「己を祭れ」とよびかけるお祭り。2012年にはじまり、半年で6回開催したが、あまりに大変だったため、翌年からは年1回の開催になった。また、勝手にセルフ祭のメンバーが色んな場所でセルフ祭を開いているが、それらはカウントせず、新世界市場での開催は2017年度で12回目となった。「ふんどしカートの儀式」「人並べの儀式」「108儀式」「飛び入りステージ太平洋」「インド相撲」「UFOの儀式」などが毎年恒例で行われている。2017年はニコニコ動画にて、2日とも生中継された。

**株式会社玉川きりこ社** ▶ 旧玉川村は静岡市の山村。この山村の暮らしに魅了され、過疎化・高齢化・少子化が進む中で山村文化が受け継がれていってほしいとの思いから2014年に会社を設立。林業を行いながら「きりこの6次産業化に取り組んでいる。静岡県文化プログラムをきっかけに『世界中の人をきりこに!』をきっかけ、新しい山と街のつながり方を模索している。※きりこを「森林を想い、森林の恵みや資源を活用しながら暮らすことができる人」と定義



**てしまのまど** ▶ てしまのまどは拠点とする豊島において、「暮らしから立ち上がる造形」という視座のもとさまざまな手法でオーラルヒストリーの記録収集保存及び共有する活動を2012年よりおこなっている。具体的にはカフェ運営による資金でアーティストや研究者を招聘し豊島にて制作活動をおこない、展覧会やワークショップやトークショーをおこなって島民や来島者らとそれらの共有する場を設けている。

**時をともし まちのひかり実行委員会** ▶ 浜名湖に面している「何もなまち」と言われるこの地にある、たくさんもの・こと・ひとに光をともし団体。それは時を紡いできた生活に他ならない。2015年の立ち上げから、メロン温室ライトアップ、まちの歌制作、コミュニティカフェ立ち上げ、高齢者への聞き取りによる昔の生活の「音と朗読」など、アーティストに力を借りながら展開している。この地に来るとアーティストがある意味「隣の人」になり得ている。

**飛生アートコミュニティー** ▶ 旧飛生小学校を活用して1986年に設立された共同アトリエ。主に作品の制作や展覧会、イベント、プロジェクトなどを開催し世代を継いで現在まで様々なアーティストが活動してきた。近年は一年に一度、校舎を一般開放して大々的に開催する「飛生芸術祭」、森づくりを通じて森と人との共存を考える「飛生の森づくりプロジェクト」を実施するなど、アートを通じた交流の場としても機能している。

**登呂会議** ▶ 弥生時代の登呂遺跡で稲を育て、米を甕型土器で炊き、足元にある素材で道具と住まいを作る。「暮らし」(作る・食べる・生きる)と「モノ」(作る・使う・直す)の循環を体験することで、先人の知恵と工夫を学び、「現代の暮らしを見直す」きっかけとする。登呂会議ではこの実験活動を【アートロ=ARTORO】と呼んでいる。土さえあれば生きていける、ここに生まれてよかった、と生きる自信と地域愛が創発されるのではないだろうか?

**NPO 法人ハートアートリンク** ▶ 障害のある人とアーティストが1対1のペアとなり制作する「アートリンク・プロジェクト」、限界集落の島で高齢者や島の人と価値を問い直していく「笠岡諸島アートブリッジ」、「まちのすまカフェ」や街中でのワークショップなど、地域や自然・食や伝統にこだわった企画を展開。学校や施設へアーティストを派遣するなど、様々な人がアートを通して相互に関わっていく過程を重視し、高齢者・障害者・子どもを含めた市民に表現活動を提供している。2010年から、瀬戸内国際芸術祭の関連企画「高松アートリンクプロジェクト」を実施し、2014年度からは高松市内広域の施設に通年継続的にアーティストを派遣している。

**プロジェクト FUKUSHIMA!** ▶ 2011年の東日本大震災直後、福島県の現在を発信することを目的に福島県内外の有志によって結成(当初の代表は音楽家の大友良英、遠藤ミチロウと詩人の和合亮一)。毎年「大風呂敷」を広げて開催する「フェスティバル FUKUSHIMA!」を中心に、ネット放送局 DOMMUNE FUKUSHIMA! の運営など、さまざまな活動を通して福島の今を更新し発表している。また大風呂敷を広げた祭りは近年、愛知、池袋、多治見、札幌などに拡散、緩やかなネットワークが立ち上がっている。

**NPO 法人 BEPPU PROJECT** ▶ BEPPU PROJECT は、世界有数の温泉地として知られる大分県別府市を活動拠点とするアート NPO。2005年4月に発足して以来、現代芸術の紹介や普及、フェスティバルの開催や地域性を活かした企画の立案、人材育成、地域情報の発信や商品開発、ハード整備など、さまざまな事業を通じてアートが持つ可能性の普遍化を目指し、アートを活用した魅力ある地域づくりに取り組んでいる。